

紙面紹介

- 1頁 会長あいさつ、総会通知
- 2頁 学校長あいさつ  
母校の現況
- 3頁 生徒、いまむかし  
定時制の1年
- 4-6頁 青春ノ北嶺祭  
部活動奮戦す  
支部連絡先
- 7頁 事務局便り、予算決算他
- 8頁 同窓会規約、  
編集後記

福島県立郡山北工業高等学校



同窓会報

発行所  
〒963 福島県郡山市富久山町八山田大林1  
福島県立郡山北工業高等学校同窓会  
郡山 (0249) 32-1199・32-6217  
発行者 渡辺達英  
編集者 広江力男  
発行部数 7,000部

---

印刷所  
南ヤシマ孔房  
〒963 郡山市菜根1 6 21  
☎ 22 3533代



「近頃雑感」

同窓会長

渡辺達英

時代の変化と共に、身の回りの消耗品も多様化して、筆記具もボールペン、サインペン等がスーツのポケットに差込まれている。又これからは水性ボールペンが筆記具の主流になるのではないだろうか。

オフコンが普及すると、帳簿、伝票類が事務所(室)から消えて行くことであろう。ワープロがタイフに変わり、外国語の手紙が日本語に翻訳されて返って来る。この様な時代に生まれた子供達は、ナイフで鉛筆は削れない、マッチを使えないかも知れないが、ゲーム卓、テレビゲーム等の操作は中々うまい。去る日の新聞記事の中に、こんなのが載っていた。「東京では子供達にビデオを店頭において、アニメ等を見せる店がある、一時間単位で幾らと使用料を支払って、一本三〇分、一時間かかるテープを五・六本一気に見てしまふ子供がいる、それでいてポイントだけは普通送りで見ている、全部の子供と云

うわけではないが」と、何とも怖いものである。

ひと頃のマンガ時代、子供達がマンガ本を一気に何冊、何十冊と読んだ者がいたが、時代は変わり今はマイコン時代になりつつある。情報化社会と云われるこの頃、物品の販売についてもカタログ販売・テレフォン・テレビショッピング等と、家庭にいながら、テレビを見て、カタログを見て、電話で注文をする時代が来ている。又キャッシュカードの利用と商業形態も変化している。この目まぐるしく、走馬灯の様に変わるこの時代に対応するのに遅れない様にしなくてはなるまい。

福島県も空港の建設にのり出し、昨年から東北新幹線が開通して、東京が近づき、郡山にも高速交通の時代が来たが、昭和三十年頃だったか、東京支店結成のため上京、予算が無く純行で上野駅まで、六時間もかかって行ったことを思い出す。今では夢の様な話である。東北自動車道でも、郡

山から岩槻まで約二時間で行く時代である。これも東名と連絡すれば大阪・九州も近づくことになる。

今は科学万能の時代になり、人間生活にも変化が出て、長生きする老人が多くなり、生まれ出る子供達が少なくなつて来ているが、これから十年後、二十年後の社会はどうなつて行くのだろうか。オートメ化が進み、ロボットが職場を占有する時代が来つつある。我が国でも失業率が高まつて来ているが、この様な時こそ、技術教育を身につけておくべきであろう。工業教育等も時代の変化はあろうが、それぞれに対応出来る様、基礎教育が必要である。理論的なことも大切ではあるが、技術を身につけることが最も大切であろう。理論は技術とともに身につくものである。工業教育は何にも応用出来る教育であるから、今までの卒業生の職業も様々で多岐にわたつていいる。両校が統合して八年各地の同窓生の方々、又卒業生の皆さん、在学時代の思い出多い青春時代を今一度ふり返って、工業教育を受けたことへの感謝と、誇りをもってそれぞれの立場で、頑張つて行きましょう。

同窓会員数

計	同(定)	郡北工(全)	郡西工	郡山工(全)
一三、〇七	二六三	二、四三三	三、一七三	五、八四三

一九八三・三・一現在

昭和59年度  
**同窓会**  
**総会通知**

昭和59年度定期総会を左記のように開催いたします。多数参加して下さいませよう。ご案内申し上げます。尚新会員はご招待いたしますので会費は無料です。

記

一、五月十三日(日) 午後二時より  
一、場所 多楽食堂  
一、郡山市堤下町  
一、会費 三千元  
(当日持参下さい)

懇親会

文房具・事務用品・ファンシー・アクセサリィー・画材

有限会社 **渡 達**

郡山市麓山通り (市民会館入口) TEL 22-1159



学校長 山口 博

### さらに充実発展を期したい

昭和五十九年の新春を迎え、先輩各位には益々ご健闘で、各界においてご活躍のことと拝察いたしております。本校も統合後八年目を迎えた訳であります。諸先輩が残された良き伝統を受けついで、生徒諸君も学習・部活動・資格取得に精を出している所でありませぬ。また就職、進学の状態も極めて好調でありまして殆んどが内定の段階にありますが、これも偏に諸先輩の各界における業績の反映でございます。あらためて厚くお礼を申し上げます。

去る十一月初旬には、第二回の北嶺祭(学校祭)を盛大に開催いたしました。先生方や生徒諸君が一丸となって、長期間にわたって企画・製作されました貴重な内容が発表されまして、多数の方が参観に來校されました。成功のなかに幕を閉じた訳であります。第三回は統合十年目にもあたりますので、今回の反省資料を大切にして、次回に期したいと考えている所でございます。

施設々備につきましても本年度は自転車置場の増設ソフトボールバックネットの工事が完成いたしました。まもなくグラウンド周辺の緑化工事にとりかかるとなっております。本校は大規模校であり、定時制も併設されております。体育館が一つだけでは部活動を盛んにするためには不便を感じておりますので、第二体育館の建設を要望している所でございます。

生徒諸君の部活動につきましても、その活躍はめざましく、ソフト部・軟庭部の全国大会への健闘をはじめ、東北大会への各部の出場があり、新人大会でも好成績の部が多く、次年度の大会における活躍が楽しみです。厳しい寒さのなかでトレーニングを続けておりますが今後に期待したいと考えております。



教頭 箱崎 和 雄

### 母校の現況

最後になりましたが、全国有数の内容をもつ本校において、すぐれた素質を持つ沢山の後輩にさらに努力

を積み重ねて、さらに充実発展を期するようにしたいことを申し上げてあいきつといたします。

同窓会員の皆様には、益々ご健勝のことと存じお慶び申し上げます。また、日頃何かとご協力をいたいただき厚く御礼申し上げます。

さて、本校も統合以来七年を経過し、この間、施設整備の充実はもとより環境整備も充実いたします。生徒の活躍も充実発展の一途をたどっております。誠に有難く御同慶の至りに存じております。特に本年度は統合以来、三年に一度実施する事になった北嶺祭の二回目となる十一月五・六日の両日、生徒の日頃の学習内容や部・クラブの研究発表を中心として盛大に実施し、約三千を越す外來のお客さん方の好評を博した次第です。又、これと平行して十一月五日に行われた中学生の一日体験入学には、昨年

度を二百名も上廻る約七百余名の参加者を見た上、これを反映してか今年度二年目を迎えた推薦入学には、県下の志願者が殺到し、情報技術科は四・六倍、電子科は四・三七倍と志願者にとっては驚異的倍率の難関となりました。結果的には、一八二名の志願書から一〇〇名を厳選して内定しましたが、このように本校は名実共に県内工業高校の旗艦としての地盤を確実に固めつつあり、誠に力強い限りと存じております。


生徒諸君の学校内外における活躍も目覚しく、国体インターハイにおけるソフト部、軟庭、陸上部の活躍を始め、東北大会にも数多くの運動部が出場して注目を集めております。今や運動部関係では、県内大会の上位入賞位では満足すべき

成績とは申せず、野球部の二回目の甲子園出場でも成れば、全く爆発的な人気を呼ぶものと期待されております。

また、地味ではありますが文芸的な活動も見逃せず川柳クラブの県奨励賞の受賞を始め、発明工夫展の上位入選、北工プラスバンド部の定期演奏会、アニメーション、写真、美術部の発表展示会等、着実にその評価を高めております。一方工業高校の実績評価を高めつつあります。一方、工業高校の実績評価ともなる各種資格・検定の取得状況も素晴らしく、本年度は、第三種電気主任技術者検定に一名合格したのを始め、延一四二二名が、各種の資格・検定を取得しております。

以上、本校の近況を極く大ざっぱに述べましたが、詳細はそれぞれの部門に記述されるかと思っております。後輩達のこれからの活躍を期待する意味においても、適切な御指導、アドバイスをお願い出来れば幸甚と存じます。





総合防災プランナー  
火災発見より消火まで

## 田村通信防災工業株式会社

代表取締役 増子久治 (昭和42年卒)

福島県郡山市安積町荒井字下北井前4の1 ☎45-2882(代)





教 頭 宗 形 悦 郎

# 生徒いまむかし

昨年四月、名実とも県下一の施設、設備そして生徒数、職員数をもった本校に着任しました。旧郡工と旧西工の流れが一緒になって創立された、郡山北工、新しい学校であると同時に古い伝統をもつ工業高校であります。私の青春時代、生徒と共に過ごした旧郡工の歲月は、過去のものとなつてしまったと悲しんでおりましたところ、このたびの着任で、教え子の子供と接し、昔の先生方と一緒にいたり、また残っている古い機械に触れている中に、桃見台の思い出がよみがえり大変なつかしく感じている現在です。

さて、着日間もないある日校内を回って生徒便所に入りました。そして手を洗うため蛇口をひねろうとしたところ、後ろにいた生徒がさつと水を出し、先生どうぞと言ってくれた。私はびっくりした。そして心の中、郡工、西工の伝統健在なりと叫ばずにはいられなかつた。廊下ですれ違ふ殆どどの生徒が会釈をする。教室でプリントを貰うときコックリ頭を下げて受けた。現代っ子はクールだとやられてる中で、このような生徒に接すると、ついいまわりの先生方と昔の話に花が咲く。しかし話の終わりに今の生徒はという比較論が出てくる。

本校の大部分の生徒は問題ないが、○学校の規則が守れない。○基本的生活習慣が乱れている。○自主的な学習活動、行動がとれない。○根気強さが無い。○倫理感、罪悪感がうすい。等々これらがもとで非行をし指導される生徒が出てきたのは事実である。昔の生徒でも居なかつたわけでは無いが、非常に数が少なかつた。何故なのか、これには多くの要因がありましよう。その中で大きな影響をもつもの、家庭環境について考えてみます。

家庭の環境は大きく違つてきた。子供は一人か二人、多くの母親は職業をもち、家庭生活に戻る時刻が遅い。子供に対する拒否・溺愛が目立ち、父親の放任、厳格が多い。家庭での団らんが少ない。子供は自分の部屋に閉じこもり、となると子供の心にひびきが生じ、それが非行につながるのとは当然であろう。昔は一間に、じいちゃん、ばあちゃん、兄弟が一ばい、兄弟けんかをしながら成長し、家庭の温かさとしつけを受けてきたのである。同窓生の諸君貧しくとも良い家庭をもつて欲しい。そして立派な子育てをやつて貰いたい。できたら郡山北工によこして下さい。



教 頭 森 義 男

# 定時制の一年

同窓生の皆様には益々御清栄のことと拝察申し上げます。定時制も幾多の困難を克服し、二十有余年の歴史を刻んで参りましたが、これもひとえに先輩の皆様温かい御協力と御理解の賜物と深く感謝申し上げます。

道のべに咲くやこの花  
えにしなくしてわが逢うべしや

この歌は偉大な国語学者金田一京助先生の作であります。道のべの花との縁(えにし)巡り合ひのことを歌つたものであります。私もえにしがあつて、本校に勤務することになり、然であるう。昔は一間に、じいちゃん、ばあちゃん、兄弟が一ばい、兄弟けんかをしながら成長し、家庭の温かさとしつけを受けてきたのである。同窓生の諸君貧しくとも良い家庭をもつて欲しい。そして立派な子育てをやつて貰いたい。できたら郡山北工によこして下さい。

同窓生の皆さん、教職員の皆さん、生徒諸君、御父母雇用主の方々と巡り合つたわけでありますので、この『えにし』を大切に、精一杯努力する所存でございますので、何卒よろしく願ひいたします。

それにつけても、本年度最大の行事「北嶺祭」が盛大かつ成功裡に終了できましたのも同窓生の皆々様の絶大なる御支援あつたればこそとこの母校に寄せる物々たる愛校心にはただ驚き入るのみといった感がございます。今後ともどうぞよろしく願ひいたします。さて、去る五十七年定通教育の充実を目標とした、

福島県後期中等教育審議会の答申がありました。これに先立つこと二年、本校定時制は、専修コースを新設し、高校卒以上の社会人に、機械と電気の専門性を修得できる道を開いて、その充実、発展に尽力しているところでございます。又単位制の弾力の運用が検討され、多様な生徒やそのニーズに出来るべく鋭意努力しております。次に定通体育大会も各種目共二、三位と好成績を収めておりますし、県高教研においての生徒研究の発表で優秀賞を獲得、更には専門学校等上級学校への進学をめざす生徒もおり、今年はずでに福島大学経済学部夜間コースへの推薦入学合格内定者も出ております。生徒も教師も力を合わせて職業と学業との両立に着実に励んでいるところでございます。

ただ、定時制の現況は、生徒の絶対的な減少という厳しい環境にあり、困難の度を加えているところでありますので、勤青少年の健全育成のさめ、今後とも一層の御協力と御理解を重ねて願ひ申し上げます。

末筆ながら、同窓生の皆様方の御健康と御発展を心より祈念し、摺筆いたしました。

味とボリュームの弁当

# ホクト一食品

郡山市山崎305-90 TEL 22-0166

# 青春 第2回 北嶺祭

## 部活動・奮戦す

—ソフト・陸上・庭球など—

校舎 A・B棟



### 三千人の来客 全員の総和

#### ▼生徒会

う々に訪れる来客の応接にうれしい悲鳴をあげながら、一日中校内を駆けめぐった第2回北嶺祭は、私たちに十分な充実感と快い疲労を残して、11月6日に無事終了した。決して恵まれた位置にあるとは言えない本校に三千名を優に越える来客のあつたことは私たちにとって誠に有難く、ご来校の皆様にご心より感謝しなければなるまい。

生徒会ではこの日のために4月より準備を始めた。5月のリーダー講習会も主眼は北嶺祭についてである。生徒会を核にH R長、文化部長を通して、その日のための心の準備を全校生に伝えんがためである。

生徒会では本校の北嶺祭には主要な二本の柱があると考えた。すなわちその一は工業各科の展示発表で、北嶺祭の基幹をなす、すぐれて専門的な学習成果の発表の場。その二は各部による生徒の自主的活動の場。その三は生徒会役員を中核とするプロジェクト・チー

#### ム

の事業である。

生徒会はこのプロジェクト事業に力のほとんどを傾注した。プロジェクトの役割は、北嶺祭に必要な事業の企画とその責任ある運営を生徒自身の手に乗せることにより、生徒の自主性と創造性を、そして具体的な仕事を通して責任感や社会性を養うことにある。

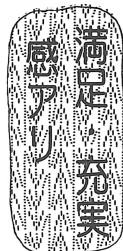
数ヶ月に及ぶ準備、合宿をしてのそれ、校外にその資料を求めたの行脚、今にして思えばどれもこれも楽しい苦労ということになるが、その過程には様々な人間的接触が生まれその接触こそが重要な体験そのものであった。

作り上げた形(事業)はそれとして評価されるべきであるが、その形を作り上げる過程で得る形のない体験こそが生徒会プロジェクトの、いや北嶺祭の最大のねらいだったのかもしれない。

ともあれ全生徒、全職員、全職員としての第2回北嶺祭は、一人一人に様々な体験と想い出を残して無

事終了した。共に力を寄せ合った隣人に、そしてご来校の皆様にご感謝しつつこのペンを置きたい。

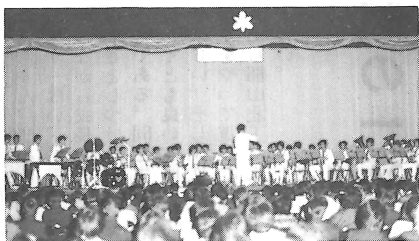
(顧問 桜井正直)



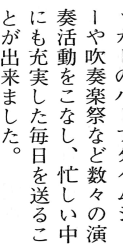
#### ▼吹奏楽部

今年もまた昨年、一昨年に上回る様な忙しい年でした。8月と9月に行われた吹奏楽コンクールでは地区大会、県大会とも力を十分発揮できず、残念な結果に終わってしまいました。しかし、自分たちのサウンドを創れたということでは部員

#### 北嶺祭で演奏



一同満足しています。11月には「北嶺祭」があり、市内パレードやフィールドドリルショーなど、数々の演奏を披露しました。他にサッカーのハーフタイムショーや吹奏楽祭など数々の演奏活動をこなし、忙しい中にも充実した毎日を送ることが出来ました。



しかし、充実していたといってもただ行事に追いかけていただけで、自分たちが満足したような演奏は、数少なかつたと思えます。

2月11日、郡山市民会館において、第七回吹奏楽部定期演奏会を開き、成功裡に終了しました。(部員一同)

昭和五十八年度の我がソフト部の成績を見ると今年度は満足度のいく年でありました。



#### ▼ソフトボール部

全国インターハイ六年連続六回目の出場と全国大会初のベスト8に入りました。今年の大会は愛知県刈谷市で行なわれ猛暑の中で戦った訳ですが、調整がスムーズにいった事が勝因の一つ

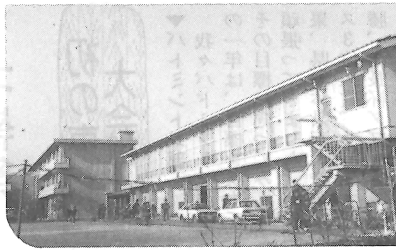
ではないでしょうか。また全国大会に出場するチームの中で本校ソフト部は常連のチームとして注目されて居り、へたな試合は出来ません。東北の雄として期待も大変なものがあります。また今年のもう一つの大きな大会は群馬国体に二年振り三回目の出場をしたことです。成績は一回戦で静岡県と対戦しおしくも一対三で敗退いたしました。力はまいった互角ではなかったかと感じました。三年生はこの大会が最後の試合でした。今年最後の大会は南東北新人大会が宮城県白岩市で行われ、本校は福島県の第二代表として出場いたしました。第一回戦は宮城県第一代表の古川高と対戦し十二対八で勝ち決勝戦は地元同志の対戦となり日大東北に十二対二で快勝し初の全国選抜大会の切符を手に入れました。

今年度も昨年以上の成績を納めたいと思います。(宗像重武)



#### ▼陸上競技部

昨年の反省を生かし、基礎体力づくりの養成と走り



▶体育館と  
テニスコート



▲盛況の北嶺祭  
一九三二・五十六

込みを中心とした練習に切り換えて各自のレベルアップを図りシーズンに向かって

た。県高校体育大会で、伊藤が四〇〇Mで二位、小川・坂本が三段跳で二・三位に入賞、最終日には、五〇〇〇Mで佐々木が二位になり、大会のフィナーレを飾る一六〇〇Mで念願の優勝を果たし大いに気を吐いた。その結果5種目で十名が東北大会の出場権を獲得した。東北大会は、殆んどの生徒が昨年経験している。試合であるが、力を出し、伊藤の四〇〇Mと一六〇〇Mで入賞、名古屋IHの切符を手にした。名古屋IHは、猛暑の中行なわれ選手のコンディションつくりで苦労した大会であったが、選手達は、試合が終ったあとは全力を出しきった満足感でいっぱいだった。その後県総体では、IHの疲れはあったが、三段跳で小川が優勝、金子・坂本が二・三位に入賞し本県陸上始まって以来の快挙を成し遂げた。駅伝競走大会では、近年にないメンバーがそろい四位に入賞、初めて東北高校駅伝に駒を進めることができた。又、東日本30キロで佐々木、国分が出場一時間五十分台で完走する健闘をみせてくれた。来年度はチーム力が少し

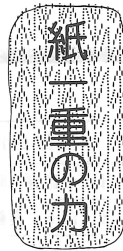
劣りますが、諸先輩が築きあげた成績に負けぬよう一生懸命、努力・精進をする所存です。(星 保男)



▼軟式庭球部

春、上々の仕上がりでシーズンを迎えました。県高校大会の団体戦では、最終戦で全国中学一位を五人そろえた岩農人、まとまりのある本校チームが勝ち悲願のV2を達成し、伊勢での全国大会へ行ってきました。(個人戦は、五チーム共、健闘及ばず四回戦敗退。)

の目標に向かいます。三月末には奈良での全国大会に出場します。(岡部誠彦)



▼野球部

北工野球部育ての親であり、甲子園出場の原動力であった井上部長が六月初旬にご逝去されました。その衝撃は、はかりしれないものがあります。が、我々野球関係者は故人の遺志を受け継ぎ北工野球部の伝統を益々栄えあるものにすべく努力する所存です。井上先生のご冥福を心からお祈り申しあげます。

足腰を鍛えています。今後とも皆様のご指導・ご声援をよろしくお願いいたします。(溝井清治)



▼男子バレー部

旧顧問の佐久間俊博先生が転勤され、重責を感じながら顧問になり一年が過ぎました。春、好調な滑り出しで、コンビバレーが冴え、県高校大会では三位になりました。しかし、主力選手が引退した後は、キャリア不足でエース小山を生かすきれないまま県総体を迎え、ベスト8止りで早々と姿を消しました。

先輩諸氏には、いつも御支援・御指導を頂戴し、部員一同深く感謝しております。(加藤正明)



▼サッカー部

四年ぶりに監督を仰せ付かった訳ですが、若い選手が数多くいたにもかかわらず、期待に応えることができず、県大会も一、二回戦で終ってしまったのが残念です。

今年一年の反省を礎として、何年計画か強い北工サッカー部、内容のある(精神的にも期待される)サッカー部になるように選手ともどもがんばっていきたくと思います。

さて、運動部の場合、素質のある選手が大きく成長していくのが常です。どうしても素質のある選手を発掘する必要がある訳ですが同窓生諸氏の絶大なご協力をお願いしたいと思います。中学生の中に、北工生としてふさわしい生徒がいたなら、サッカーのみならず、お知らせいただき、一致協力して北工の発展に尽力していきたいと思っています。(仲本武司)

# 郡山北工現勢

1983. 5. 1

位 置	東 緯 (度)	140° 22' 44"
	北 緯 (度)	37° 30' 26"
校 地 等	地 (平方米)	87,297
	うち運動場(々)	39,800
生 徒	全 日 制	1,212
	(うち女子)	(140)
教 職 員	定 時 制	77
	計	1,289
進 路	全 日 制	112
	計	137
進 路	進 学	14
	産 業 別	257
進 路	第 2 次	115
	第 3 次	239
進 路	福 島 県	107
	東 京 圏	17
進 路	北 関 東	5
	宮 城 県 他	4
進 路	国 鉄 郡 山	20
	他	11

▼バドミントン部  
我々バドミントン部のこの一年は、目標を決めて、その目標に向ってみんなで頑張ってきました。その結果、県総体県南大会ダブルス3位入賞、一年生大会優勝、議長杯ダブルス優勝、新人戦県南大会団体3位、ダブルス優勝、シングルス3位、県大会ダブルス準優勝、さらに、念願であった東北大会出場を果たすことができました。この一年間毎日体力の続く限りコートの中を走り回り、苦しい練習にたえてきました。そのことをすべての大会で十分生かし、思い出に残る最高の試合ができたと思います。これも、同窓会の皆様方ならびに先生方の暖かい御支援があったからこそ我々も頑張ったのです。本当にありがとうございました。これからも我々バドミントン部員一同今まで以上に努力し、郡山北工の名に恥じぬよう頑張りたいと思います。(佐藤睦彦)



## 北嶺祭・部活 (続)

▼定 時 制  
生徒会を運営する立場に立たされて一年間がまたたく間に過ぎて了った。この一年間、喜びも悲しみもすべて生徒会と共にして来たような気がする。私の人生でこの位充実感を覚えた事



は初めてである。同窓会からの原稿依頼もあったので思い出と反省をこめて、この一文を書き、後進の為に私自身の為にも記録を残したいと思う。4月、5月、6月生徒会行事と学校行事が次々と実施される。生徒会執行部も係の先生も担任の先生もてんでこ舞いである。何んとかこの悪習を改善したいと思う。今年には特に応援団員で経験者が皆無になつて了つた。定時制の生徒はみんな善良で恥ずかしがりやである。団長のなり手が無い。一番困つたのは顧問の先生である。生徒諸君ノ来年は団長になつて下さい。運動部も体験発表も優秀な成績をおさめた。ポ一リング大会も研修旅行も楽しかった。残念なことは予選会がでかかぬことだ。後進よノ 来年は頑張つて欲しい。(K・M)

## 支 部 連 絡 先

支 部 名	支 部 長 名	卒 業 年 度	勤 務 先	〒	現 住 所
東 京 方 部	小野寺 昭	23キ	日東紡績(株)建材営業本部住宅建材営業部	145	東京都太田区北嶺町27-4
宇 都 宮 方 部	吉田 良毅	31キ	富士重工(株)宇都宮製作所生産部第二生産課	320	栃木県宇都宮市今宮4-1973-3
水 戸 方 部	山崎 功	29キ	(株)日立製作所水戸工場	312	茨城県勝田市巾根4950-14
日 立 方 部	山川 敏夫	27キ	(株)日立製作所日立工場	316	茨城県日立市金沢町2670-100
埼 玉 方 部	土屋 勇	29キ	日産ディーゼル(株)上尾工場	362	埼玉県上尾市緑ヶ丘1-2-23
白 河 方 部	清水 国雄	25キ	清水建設工業(株)	961	白河市南町44
郡山市役所方部	加藤 宰司	25キ	郡山市役所	969-13	安達郡大玉村玉井字薄黒内98-3
日東富久山方部	高橋 英雄	25キ	日東紡績(株)富久山工場	963	郡山市安積町柴宮27-10
会 長	渡辺 達英	24キ	文房具商	963	郡山市麓山1-16-28
本部事務局長	広江 力男	24キ	県立郡山北工業高等学校	963	郡山市富久山町八山田字大林1 (学校内)

工作機械 / 板金機械 / 熔接機材 / 作業工具 / 測定工具 / 研磨材

# 株式会社 伊藤商店機材部

代表取締役 伊藤 英 二 (28年度建築科卒)

〒963 郡山市菜根5丁目21番13号 ☎ (0249) 33-0611 (代)

同窓会予算・決算報告

1. 収 入

項 目	昭57決算	昭58予算
繰越金	97,550	27,050
会費	1,338,000	1,311,000
入会金	2,535,000	2,595,000
利子	8,719	100
雑収入	92,000	90,000
合 計	4,071,269	4,023,150

2. 支 出

基 本	金	267,600	262,200
会費	議務費	133,286	140,000
通事	信費	46,100	50,000
慶	費	320,530	398,000
旅	費	176,200	150,000
会誌	編集費	80,800	50,000
渉外	費	174,850	190,000
記事	費	27,720	30,000
事務	費	172,000	170,000
北	嶺祭	80,000	80,000
子返	備費	0	100,000
予	金	51,600	2,950
合 計		2,513,533	2,400,000
		4,044,219	4,023,150

(事務局 広江力男)

昭58 基本金会計

1983. 4. 1

収 入	繰越金	2,628,758
	利子	29,503
	昭58 (3,000×)	
	(437×0.2)	262,200
	計	2,920,461

昭和58年度

定例総会報告

事務局だより

昭和五十八年度定例総会は、五月十五日(日)午後二時より「多楽食堂」の二階において職員、来賓多数の御臨席を得て、同窓生三十五名が参加して開催されました。総会が始まり、会長より出席された来賓、職員との紹介があり議事が進みおもな内容は決算報告、予

算案等が別紙の通り可決された。続いてその他の件で、二十九年建卒の遠藤昭次氏より「郡山北工」の「北」を取りはずすことは出来ないのか、と云う動議が提案され、いろんな意見が出ましたが、この件は非常に大きな問題なので次期役員によく話し合ってもらいたい

と云うことで一任ときました。続いて役員改選となり三十三年機卒橋本氏より役員に不都合な方がなければ留任と云う意見があり全員拍手で役員留任となりました。別記のように役員を決定し全て終了いたしました。続いて恒例の懇親会が盛大に行なわれました。

同窓会役員名簿	会長 渡辺 達英
	副会長 佐藤 正夫
	監事 42 滝田 孝太郎
	26 機 加藤 和夫
	24 機 塚原 健二
	41 機 佐久間 秀夫
	26 機 今泉 善治
	26 機 佐藤 正夫

新入会員

1984. 2. 29

機械	電気	電子	情報	建築	化工	定機	計電
一	七	四	三	三	一	一	四
八	五	〇	八	九	七	二	一
名	名	名	名	名	名	名	名

女(五九)

教職員異動

職 科	氏 名	出 転	職 科	氏 名	入 転
教諭	鈴木七郎	退職	教諭	宗形悦郎	転入先
〃	橋本 弾寿	〃	教諭	原田 智	〃
〃	佐藤 富重	〃	教諭	小菅 士雄	〃
教諭	保体 雄	福島工	〃	熊田 良治	〃
〃	阿部 文英	二本松工	〃	吉田 加代子	矢 吹
〃	佐久間 俊博	福島工	〃	仲本 武司	福島工
〃	佐藤 洋一	〃	〃	遠藤 達雄	二本松工
〃	佐々木 勇	退職	〃	宗像 末寿	〃
〃	山田 善之助	警 女	〃	佐久間 郁男	〃
教諭	日下部 文紀	郡 女	〃	田中 誠	〃
調理解	伊藤 フヨ	退 職	教諭	森 義男	福島高
〃	遠藤 英一	福島工	教諭	菅野 健七	白河女
〃	福島 工	〃	教諭	鈴木 丈夫	二本松工
〃	主 妻	〃	〃	佐々木 勇	郡山北工
〃	伊藤 ミヨ子	〃	〃	伊藤 ミヨ子	〃

昭五八・三・三一

よい子が育つよい牛乳  
あぶくま高原牛乳

**岡田乳業 小原田販売所**

郡山市栄町5-18 ☎33-3281

おいしいパンとケーキ

**大友パン店**

郡山市さくら通り ☎23-6536



# 同窓会規約

## 第一章 総 則

第一条 本会は福島県立郡山北工業高等学校同窓会と称し、本会の本部事務局は、福島県立郡山北工業高等学校(以下「母校」と称す)内におく。

第二条 本会は会員の親睦を図り互助の事業を行ない、母校教育の振興発展に努め、わが国の工業発展に寄与することを目的とする。

第三条 本会は第二条の目的を達成するため、次の事業を行なう。

- 一 母校の発展と会員の相互扶助に関する事業
- 二 会誌・会員名簿・その他図書印刷物の刊行
- 三 その他目的達成に必要な事業

## 第二章 会 員

第四条 会員を分けて普通会員、名誉会員、特別会員とする。

- 一 普通会員は県立郡山工業高等学校・県立郡山西北工業高等学校・県立郡山北工業高等学校の出身者とする。
- 二 名誉会員は母校の旧校長とする。
- 三 特別会員は母校の現

## 旧教職員とする。

## 第三章 役 員

第五条 本会に次の役員をおく。

- 一 会 長 一名
- 二 副 会 長 四名
- 三 監 事 三名
- 四 常任幹事各クラス名
- 五 幹 事 名
- 六 事務局 局長 一名
- 七 事務局 次長 一名

第六条 役員の仕事は次のとおりである。

- 一 会長は本会を代表し会務一切を統括する。
- 二 副会長は会長を補佐し、会長事故あるときは、その任務を代行する。
- 三 監事は本会の運営及び会計を監査し、幹事に出席し発言できる。
- 四 常任幹事は本会の事業を執行する。
- 五 幹事は本会の事業を審議する。
- 六 事務局 局長は会務の処理にあたる。
- 七 事務局 次長は事務局 長を補佐し庶務を分担する。

第七条 本会の役員は次の方法によって選出し、その任期は二年とする。但し再任を妨げない。

- 一 会長・副会長・監事は総会において選出する。
- 二 常任幹事・幹事・事務局 局長は会長が委嘱する。
- 三 事務局 次長は事務局 長が選任する。

## 第四章 会 議

第八条 本会の会議は総会・幹事会・常任幹事会とする。

一 総会は本会の最高決議機関であって、毎年一回会長がこれを召集する。但し幹事会が必要と認めた場合は、臨時に開くことができる。総会は出席人員をもって成立し、決議は出席者の過半数の同意を必要とする。

二 幹事会は正副会長・事務局 局長・同次長・常任幹事・幹事・監事で構成し、総会につぐ決議機関である。

三 常任幹事会は正副会長・事務局 局長・同次長・常任幹事・監事で構成し、会務を審議執行する。

第九条 必要に応じて、役員を開くことができ、正副会長・事務局 局長で構成する。

第五章 会費・会計及び諸帳簿

第十条 本会の経費は会費・入会金・事業収入・寄附金をもってこれをあ

てる。

第十一条 普通会員は卒業の際終身会費三千円を入学時に入会金三千円を納入する。

但し定時制は卒業時に入会金三千円と終身会費三千円を納入する。

第十二条 本会の入会金・終身会費の二割を、基本金として積立てる。

第十三条 本会の会計年度は四月に始まり、翌年三月に終る。本会の収支は毎年三月末日において決算し、総会に報告する。

第十四条 本会に次の帳簿をおき、事務局で保管する。

- 一 規約綴
- 二 会員名簿
- 三 役員名簿
- 四 会計簿
- 五 記録簿
- 六 文書綴
- 七 備品台帳
- 八 その他必要と認められた帳簿

第十五条 本会に次の集會を設けることができる

- ・ 各支部会
- ・ 各科会
- ・ 同級会
- ・ その他他会

これらの運営はそれぞれ規約による

第十六条 本会に次の内規を設ける。

- 一 表彰内規
- 二 旅費内規
- 三 慶弔内規
- 四 会計内規

第十七条 本会会員は氏名・住所・勤務先等に変更があった場合、直ちに事務局に連絡しなければならぬ。

第十八条 規約の変更は総会において、出席会員の過半数の賛成を得なければならぬ。

## 第七章 附 則

- 一 この規約は昭和五十二年十一月十八日より施行する。
- 二 この規約は昭和五十五年五月十八日より施行する。

## 編集後記

一人当り火薬三トン、地球人を十回殺害の核兵器に加え、米・墨の火山爆発で太陽エネルギーは二〇%減。そのため厳冬。同窓会員一万三千余。52から18歳、内外各界に奮闘。青春の母校と会員により一層の栄光あれ。(編集委員・高野和雄)

★新刊 書籍・雑誌・教科書・北工教科書 辞典・参考書・文庫 etc 取扱店

## (有)松文堂書店

堂前店 郡山市堂前町(如宝寺前) ☎322362  
さくら通り店 郡山市清水台(八幡プラザ) 1F ☎221735

◆作業服・制服・白衣 製造◆

## 株式会社 浜津被服

代表取締役社長 浜津 藤江  
専務取締役 浜津 幸平 (機3期卒)

福島県郡山市清水台二丁目5番3号 ☎32-2631